

# 地 域 再 生 計 画

## 1. 地域再生計画の名称

「ゆとりある自然と共生する暮らし」計画

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

長野県、飯田市

## 3. 地域再生計画の区域

飯田市の区域の一部（竜東地区）

## 4. 地域再生計画の目標

飯田市は、日本のほぼ中心に位置し長野県の最南端、いわゆる伊那谷における中心都市である。

飯田市の東部に位置する竜東地区は、伊那山脈の山々に囲まれた中山間地域から、南アルプスの山岳地帯まで、豊かな自然と個性的な文化が息づいている地域である。

遠山川沿いの谷間は遠山郷と呼ばれ、南アルプスの豊かな自然を始め、アルプスを一望できるしらびそ高原や日本のチロルと称される下栗地区など、魅力ある景観を織りなしている。古くから秋葉街道の宿場町として栄えた和田宿周辺には、番所跡、展示郷土館「和田城」等の名所旧跡や、高濃度塩化物温泉「遠山温泉郷 かぐらの湯」等の観光施設がある。また、遠山郷は、国の重要無形民俗文化財である「遠山の霜月祭り」を始めとする貴重な文化遺産の宝庫である。このように、豊かな自然や民俗芸能等の地域資源、観光資源が散在しており、年間約10万人を超える入込客がある。

さらに、ライフスタイルが多様化するなかで余暇時間の増加や価値観の変化により、遠山郷の自然や文化への関心が高まり、ここを訪れるリピーターが年々増えている。

現在、国道152号や三遠南信自動車道（国道474号）の整備が進められており、人口200万人を超える遠州や三河方面の南の玄関口として、更なる交流人口の増加が期待できる。

しかしながら、当該地区は山間部であり交通手段は車に頼らざるを得ず、その基盤となる市道や林道は、落石や法面崩落などの危険性が高く、安全な通行が確保できていない状況である。また、狭小な幅員のため、すれ違いに苦慮することや観光施設間の移動に時間を要するため、観光振興の大きな妨げとなっている。

併せて、当該地区の大部分が森林であり、林業の振興を図ることが地域活性化のために不可欠で、森林整備(間伐)を推進し、地域産材(間伐材)利用を促進することが、大きな課題とな

っているが、林道などの道路環境が悪く、間伐材の搬出や木材製品の運搬に支障を来している。

また、遠山郷は山脈に囲まれた地形から、市中心部からの交通ルートは限られており、災害時の孤立化が懸念されている。このため、複数路線の安全確保が緊急の課題であり、地域住民から早急な道路整備を求められている。

以上のことから、地区内をネットワークする市道や林道を、一体的・効率的に連携し早急に整備する必要がある。これにより、通行の安全確保や時間短縮による観光客の増大や森林整備(間伐)の環境改善による木材の安定供給や、併せて災害時の緊急輸送路の安全確保が可能となる。

その結果、地域資源を通じて都市住民と市民との交流が図られ、自然と共生する癒しの場として「ゆとりある自然と共生する暮らし」につながる。

(目標1) 国道152号から「しらびそ高原」までの所要時間を40分から30分に短縮する。

(目標2) 「しらびそ高原」から「下栗の里」までの所要時間40分を30分にする。

(目標3) 国道152号から南アルプス登山口までの所要時間90分を60分に短縮する。

(目標4) 間伐材の木材加工処理施設への運搬時間を40分から30分に短縮する。

(目標5) 森林整備(間伐)面積を年間80haから96ha実施する。

## 5. 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

- ・森林計画に記載済みである林道千遠線の改良を同林道で実施している県営林道開設事業と連携し、併せて、市道尾林八ノ倉線の改良を実施することにより、災害時迂回路の確保と、森林資材の運送経費の縮減を図る。

- ・市道上村1号線、上村4号線、上村150号線と林道御池山線、赤石線、川合線の改良により、各観光ポイントを短時間で結び、南アルプスへの寄りつきや観光客の移動について安全を図る。

### 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### 道整備交付金を活用する事業【A3001】

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を終了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市道：道路法に規定する市道に認定済み。

市道上村1号線、市道上村4号線、市道上村150号線：昭和62年3月13日

市道尾林八ノ倉線：平成8年3月28日

- ・林道：森林法による地域森林計画（平成20年4月樹立）にすべての路線を記載。

林道御池山線、林道赤石線、林道川合線、林道千遠線

[施設の種類（事業区域）、事業主体]

- ・市道（飯田市区域の一部） 飯田市
- ・林道（飯田市区域の一部） 長野県・飯田市

[事業期間]

- ・市道（平成22～26年度）、林道（平成22～26年度）

[整備量及び事業費]

- ・市道 3, 140m
- ・林道 5, 700m
- ・総事業費 1, 315, 500千円（うち交付金 657, 750千円）

市道	555, 000千円	（うち交付金	277, 500千円）
林道	760, 500千円	（うち交付金	380, 250千円）

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置による取組

- ・該当なし

#### 5-3-2 支援措置に関連して行うその他の取組

○体験と交流事業（事業主体：飯田市、まちづくり委員会、各種実行委員会等）

- ・「日本のチロル」「日本の原風景を今に残す里」と呼ばれている「下栗の里」の都市住民を対象にした畑付のクラインガルテンにおいて、住民が講師となり農業体験を行うなどの都市と地元住民との交流を推進する。
- ・特産品の振興、遊休農地の活用や里山整備、下栗ふれあい祭り、ヒルクライム自転車競技大会、霜月祭り等、地域住民主体の事業を積極的にを行い地域の活性化を図る。
- ・しらびそ高原や下栗の里、周辺の山々の大自然を体験するため、周辺登山道や遊歩道の整備を進め交流人口の増加を図る。
- ・飯田市と観光協会の共催により、都市住民を対象としたお茶摘み体験や森林鉄道跡地ウォーキングを実施し、参加と市民の交流を深める。

○地域資源の活用と森林整備事業

（事業主体：飯田市、南信州農業協同組合、まちづくり委員会、南信濃観光公社）

- ・自然と人の営みによって形成された原風景の残る下栗の里の修景保存に取り組む。

- ・林道御池山線の改良により、日本初と言われる隕石クレーターを自然遺産として保存活用を図る。
- ・飯田市と農協が共同で、飯田市の特産品である「赤石銘茶」の製造過程で不用となる「二番茶」を使い、『南アルプスの紅茶・うまいんだに』を開発・販売し、キジの養殖の技術を生かした「遠山地どり」、遠山の清流を活かした「信州黄金シャモ」「ヤマメ」「信州サーモン」等を養殖し、市内の飲食店への提供や、市外への出荷を促進する。
- ・温泉施設「かぐらの湯」や湧き水である観音霊水、和田城を結びつけた街並みづくりや公園、遊歩道の整備による「遠山温泉郷」としての町並み整備を進める。
- ・下栗区有林を育成天然林として森林整備を行い、南アルプスと中央アルプスの山岳展望の保全を進める。

## 6. 計画期間

平成22年度～平成26年度

## 7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

- ・4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い状況を把握・公表をするとともに、関係行政機関と地元住民からなる「地域再生協議会(仮称)」を開催し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行うこととする。

## 8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

「南信州グリーン・ツーリズム特区」(平成15年5月23日認定)

- ・1002 地方公共団体および農業協同組合以外の者による特定農地貸付事業  
遊休農地の南信州グリーン・ツーリズム特区内の一般企業等への貸付事業
- ・1001 地方公共団体又は農地保有合理化法人による農地又は採草放牧地の特定法人への貸付け事業  
地方公共団体等から特定法人への貸付事業
- ・407 農家民宿における簡易な消防用設備等の容認事業  
特区内の農家が消防法の規制緩和により民宿として営業できるようにする
- ・707 特定農業者による濁酒の製造事業  
特定農業者による「どぶろく」の製造事業(体験民宿農家が酒類製造免許を取得し自ら製造した濁酒をスローフードとして宿泊者に提供するなど、この地を訪れなければ体験できないという価値観を生み出す)

以上の事業は、現在、農村部を中心に行われているが、今回の地域再生の取り組みやその他の関連事業と連携を図り、豊富な地域資源が存在する中山間地域について、より一層展開させていく。